福井の文化をきり拓く Fukui Art Culture Forum

Fukui+art
FUKKart

ふっか～と
2011.7
Vol.36

「FUKKart（ふっか～と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

ASOBI座 伝統芸能カフェ［6月］

三味線カフェ

2011年6月8日（水）19:30～21:00
会場　FLAT（福井市順化）
ゲスト出演　あべや
（阿部金三郎・阿部銀三郎・根本麻耶）
聞き手　宇野雅之抄（雅抄会）

カフェで聴く伝統芸能――。

若い世代にはあまり馴染みのない“伝統芸能”。でも場所を変えれば、興味のスイッチが入るのでは？――このようなことを考え企画は始まりました。

では、どうしたら、初めて聴く方たちに、その芸能の魅力を伝えられるのか？もともと興味のある人ならば、ある程度の知識があり、その芸を堪能したいでしょう。でも、初めて出会う人の場合はどうでしょうか？予備知識がない分いろいろと聞いてみたいと思うでしょう。目の前で芸を披露してくれるプロの口から話される言葉だからこそ、魅力が何倍にも感じられるのではないでしょうか。ゲストと「交流」できることがこの伝統芸能カフェの醍醐味です。

talk+show というスタイル

伝統芸能カフェの特徴は「talk+show」というスタイルです。トークショーでも、ショーでもありません。ゲスト（出演者）と参加者（お客様）のトークがあってのショーです。この「＋（プラス）」の要素が大切なのです。もう一つの特徴は「聞き手役」の存在です。聞き手役というと、対談の相手というイメージが強いかもしれませんが、ここで言う「聞き手」は参加者の代表、ゲストと参加者のつなぎ役です。お互いが初対面で、参加者も最初はどんな内容なのか不安でしょう。聞き手役は、その場をうまく和ませる役回りでもあります。

トークでその芸能の魅力を聴き、そして、ショーで間近にプロの技を堪能する。このカフェで伝統芸能に触れた人たちがこれを機にファンとなり、これからは自分自身でいろんな伝統芸能の公演などに出かけていってもらえれば、また、その人たちが周りの人たちも巻き込んでいってもらえたら…と感じています。

talk

「津軽三味線はただ単純にかっこいいと思った」とあべやの阿部兄弟。三味線奏者の父親と民謡歌手の母親の影響で津軽三味線に憧れを持ち、プロに。「目の前のお客さんに全力で自分の演奏をする。それが自分たちのスタイル」ときっぱり。三味線が好き。ただそれだけ。何の飾りもない、真っ直ぐな姿勢がそのまま三味線の音に現れていました。

聞き手の宇野さんは、三味線の種類について話してくれました。ひとえに三味線といっても、お座敷で用いられるような地歌もあれば、力強く弾く津軽三味線もあります。宇野さんは、あべやさんのむちゃぶり！？に応じて予定にはなかった地歌を披露してくれました。

参加者からは、矢継ぎ早に質問が飛び出しました。

＋

show

伝統芸能カフェの最大の特徴といっても過言ではないのが、会場の狭さ。30人も入ればいっぱいの小さな空間で、膝を付き合わせながら聴く三味線の音。その演奏のかっこよさに、ただただ聴きほれるばかり。加えて麻耶さんの「唄」が加わり、迫力満点。三味線日本一に輝く阿部兄弟と数々の民謡コンクールで優勝した麻耶さんの歌声に、会場からは割れんばかりの拍手が。「津軽じょんから節」の兄弟対決演奏では、聴いている参加者も力が入ってしまうほど、その演奏テクニックに釘付けになりました。

最近の三味線界の傾向として、オリジナル曲をかっこよく三味線で独奏したり、洋楽器とコラボしたりと、昔から伝わる民謡にとどまらない、新たなジャンルに広がりが出ているようです。しかし、あべやのお二人は積極的にはその方向に行かないとのこと。「結局は“じょんがら”の競演がかっこいい」――こう話した金三郎さん。自分の信念を貫くお二人の姿に日本人の心を垣間見ました。

（事務局A）

◎伝統芸能カフェ…７月には「狂言カフェ」、８月には「落語カフェ」が開催されます（参加申込受付は既に終了しています）。

まちげき

まちは劇場 2011

2011年9月23日(金・祝)～25日(日)

福井芸術・文化フォーラムでは、2011年9月23日(金・祝)～25日(日)の3日間、「まちは劇場 2011」(通称：まちげき)を開催します。「まちげき」は、福井市中心市街地を舞台に、演劇、音楽、ダンス、パントマイム、紙芝居、太鼓パフォーマンスなどのさまざまな舞台芸術の上演・ワークショップを行い、街を歩きながら芝居などを観て3日間楽しんでもらおうという企画です。

この記事を書いている7月1日現在最終調整中なのですが、ひと足早く、予↗

まちは劇場2011

出演者顔ぶれ

(予定・順不同)

佐藤健大郎
『ミューザー』

東京デスロック
『日本昔ばなし』

撮影：石川夕子

ただじゅん企画
『おはやし劇場だだすこだんだん！』
『ただじゅんの「あそびっこ！」』

マーガレット一家
『たっちゃんの紙芝居』

チカパン
『チカパンの大道芸！』

仁愛女子短期大学地域活動実践センター
子どものための音楽教室
『わらべうたで遊ぼう』

猫座
『猫は生きている』

永田雅秀と
邦楽アンサンブル“萌”

PLAY 和紙☆
『ワレワレハ宇宙人だ☆
～僕の私の宇宙星人をつくろう！～』

ジャグリング体験
ワークショップ

ドラムサークル

↗定している会場と参加アーティストの顔ぶれをご紹介します。詳しい上演日程等については、「まちは劇場 2011」のチラシや福井芸術・文化フォーラムのウェブサイトでご案内しますので、そちらをご覧ください。

福井駅東口新幹線高架下

えちぜん鉄道福井駅（車内）

まちげき、なう

フォーラム内の「まちは劇場」プロジェクトメンバーに話を聞きました。

5年ぶりの開催ということですが――

実は2006年に、当フォーラムの創立5周年記念事業として開催し、大好評をいただきました。5年前は片町や福井駅前の商店街などに呼びかけて5カ所でパントマイムやマジック、三味線演奏、演劇など3日間で10の公演を繰り広げたんです。できれば毎年続けたかったんですが、予算等の問題もあって…。今年はフォーラム内外から「まちげき復活」の機運が高まって、5年ぶり開催が決まりました。

「まちげき」の魅力は何でしょう？

そうですね、既存の文化施設ではなくて、街なかのあらゆる場所が劇場空間になることでしょうか。街なかという身近な場所で、芸術文化に親しんでほしいですね。会場ごとに上演時間をずらして設定していますので、ここで大道芸を観た後に次の場所で音楽を聴いて…、みたいな楽しみ方ができると思います。福井の街なかを歩きながら様々なパフォーマンスを楽しんでもらい、街の再発見をしてもらえるとよいですね。街なかでパフォーマンスを観たりすると、今まで見慣れていたはずの街がまた違って見えてくると思うんです。

アーティストやスタッフとしても、この場所でパフォーマンスをしたい、という場所を見つけていく面白さもあります。

5年前との違いは？

前回の「まちげき」は県外からの招聘アーティストによる公演だけだったのですが、今回は「フリンジ参加」（賛助出演）の枠を設け、アマチュア・愛好家の方にもご参加いただけるようにしました（既に企画の募集は終了しています）。また、公演だけでなくワークショップ（体験型の企画）も多くご用意しています。

運営方法にも特徴があるそうですね？

はい。「まちげき」に先がけて、6月30日から全8回の「舞台芸術プロデューサー・ディレクター養成講座」を開き、一緒に「まちげき」を盛り上げてくれる人を募集しています。本番の舞台設営や公演当日の受付などの運営全般は、この講座を受講した一般市民が担当します。講座では、舞台やイベントの企画・運営に必要な様々なノウハウを学ぶことができるので、興味があれば初めての方でも大丈夫ですよ（講座は途中回からの参加も可能です。詳しくはお問い合わせください）。

今後の展望は？

また5年先、ということがないように、できれば毎年、地道に続けていきたいですね。

なに！？えちぜん鉄道が！？「街」は「劇場」です。あなたも「参加型」えちぜん鉄道ドラムサークルに参加しよう！（山下善久）

街を歩きながら、楽しいこと、面白いことを発見できる「まちげき」プロジェクト。見る人を笑顔にできるこの企画。福井のまちなかが笑顔でいっぱいになるとたのしいなぁ。そんな気持ちで取組んでいます。ご一緒しませんか。（高橋秀典）

おもしろい人が集まれば、福井の街はおもしろくなります。街がおもしろくなれば、街に人は集まります。「まちは劇場」はそのきっかけです。（前田耕一）

福井に住みはじめて4年目になりました！今年は私も福井を盛り上げます。まちじゅうを劇場にしちゃうこの企画。この企画から、たくさんの人のつながりが生まれることを願っています！（濱見彰映）

山下　前田　濱見　高橋

K&ピエロ
『読み聞かせとマジックみたいな手品』

プロジェクト・俺の穴
『ドボボボボ』

この他にも、さまざまな催しを予定しています。

芸術・文化分野におけるソーシャル・ビジネス／コミュニティ・ビジネス 中

㈳日本経営士会近畿支部幹事　山下 博

「福井県コミュニティビジネス推進協議会」（福井県中小企業団体中央会内。他県では別団体が受け皿の例も）では、平成19年度から「コミュニティビジネス事業認証」及び「コミュニティビジネス創業奨励補助金」の審査を行い、多分野からの申請の中から前者について平成19年度17団体、20年度7団体、21年度11団体、22年度8団体の認証をした。申請前の構想段階から相談を持ち掛けられたり（勧誘もあったが不参加）、認証団体に渡される楯（ガラスと木製）を代表者から誇らしげに見せてもらったこともある。

同施策の元締めは経済産業省でも立地環境整備課（地域経済産業グループ）ということで、創業・社会起業・経営多角化などの分野だけでなく、地域を基盤とする農林水産業、環境、街づくり、防災、教育、子育て支援、福祉、介護、健康づくり、地産地消や芸術・文化も対象とすることが読み取れる応募要項になっていたこともあり、前述福井県の43団体についても多種多様な団体事業が認証され、コミュニティビジネスの新たな枠組みと今後の展開が期待されることは喜ばしい。

芸術･文化分野では、「ギャラリーカフェによるアートな街づくりサポート事業」に取り組むS有限会社（K社長。芸術家S氏もメンバー）と、「福井の自然や文化を生かしたコミュニティビジネス中間支援事業」に取り組む有限会社Hの福井市内2社のみで、舞台・音楽鑑賞・創造・企画関連は今のところ皆無である。なお、筆者はこれら2社のコア人物とは長年の交流があり、「地産地消品の販促支援、新商品開発を目指す『あぐり工房知恵作』事業」の有限会社G（敦賀市）がS有限会社とコラボを結実し、個展・ライブ・教室事業を充実させつつあることを存じ上げている。本年度は別団体の助成金を申請中であり、8月に実施の放送大学福井学習センター同窓会主催研修旅行でも、中池見湿地、敦賀ムゼウムなどに加え、同所を見学・土産品購入コースに組み込んでいる。

表題に関連して、ソーシャルにせよコミュニティにせよ、採算性や継続性が要求されるビジネスとして展開されているかのフィルターを通している。本誌でも以前、ルポ記事を執筆した、「福井でも東京、大阪と同じ舞台鑑賞を楽しめる機会づくり」をミッションとしていた団体には敬意を表していたのだが。

経済産業省施策ベースを離れたり、全国ベースで診た場合、埼玉県川越市の川越スカラ座（NPO法人プレイグラウンド）による閉館した映画館の新しい展開事例や、大阪市中心部の古典芸能関係財団法人（大学時の恩師と訪問歴あり）の自治体観光部署とのコラボによる活性化事例等々について次回、述べる。

FUKKART 舞台の裏から 5 ARTIST ESSAY

三味線の魅力

雅抄会　宇野雅之抄

「三味線」という楽器に対して、どのようなイメージをお持ちだろうか。

三味線は、楽器の種類だけでも細棹･中棹･太棹に大別され、さらに長唄･地歌･新内･義太夫･津軽三味線など、じつに多くのジャンルに分かれている。これは、昔から日本人の心情に寄り添ってきた証拠ではないだろうか。

3月の『曽根崎心中を読む／演る』では、朗読に合わせるかたちで全ての「音」を1本の三味線が担当した。BGM、効果音、地歌風の弾き歌い、手拍子が入るような賑やかな節など、「守備範囲」の広さにあらためて驚いた。また、6月の『伝統芸能カフェ』では、津軽三味線を堪能した。力強いなかにも繊細さを秘めた見事な演奏にすっかり魅了された。参加者からは矢継ぎ早に質問が出され、関心の高さに驚いた。

「伝統音楽」というと、古くさく縁遠いものと感じてしまいがちだが、そのジャンルが登場したばかりのときは、当時の人々にカッコよく斬新に映ったことだろう。常に新しい試みがなされ、多くの人々を驚かせ、心を鷲掴みにしたからこそ、長い年月を経た現代にまで残っているのだと思う。最近では若い奏者によるオリジナル曲も活発に作られている。三味線はこれからも進化を続け、次の「伝統」を生み出していく。

編　集　後　記

■街を盛り上げようと各方面の人が動いています。フォーラムのスタンスで私たちは動きます。(K.M)

■5月11日に、2年ぶりに天満天神繁盛亭の昼席に行ってきました。上方落語協会理事・事務局長の小山様とも、こてこての大阪弁で語り合いました。福井県を含む全国の自治体から地域活性化を前面に出したコラボ申し入れが相次いでいるとのこと。帰福後、例の桂三若さんに「吉本興業であんたが秋田担当のことは聞いているが、どう思う？」とメールしたら「関係あるユーストリームの番組見てネ」と返信あり。(H.Y)

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています（2011年度法人賛助会員）

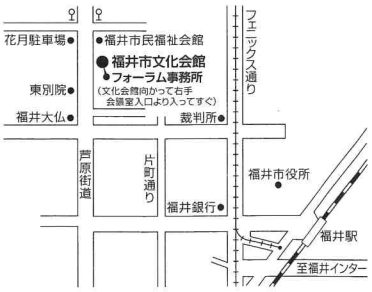
北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ
エースイン福井　（2011年6月現在）

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術･文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山2-7-1　福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905　FAX 0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝 休
E-mail geibun@geibun.info　◎公演･催し物の最新情報はwebでチェック　http://geibun.info/

■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望は、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。



2011年7月31日発行　通巻36号